

現状・課題と今後の方向性 (個性豊かな地域づくり部会)

- 文化
- スポーツ
- 交流基盤
- 国内誘客
- 海外誘客
- 地域づくり
- 移住定住
- 国際交流

など

国内の社会経済動向（概要） - 個性豊かな地域づくり部会

	各分野の状況（国の動向等）	今後の見通し
文化・芸術	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>ウィズコロナ・ポストコロナを見据えた中長期的な文化芸術の振興</u> ✓ <u>文化と経済の好循環を創造</u> ✓ <u>文化芸術行政の効果的な推進</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>「文化芸術の担い手」となる団体・関係者や文化芸術活動への支援を強化</u> ✓ <u>多様な文化芸術のグローバルな展開の推進</u> ✓ <u>地域の文化資源の保護・活用の推進</u>
スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 成人のスポーツ実施率は1990年代頃から上昇傾向で推移 ✓ 国は、第3期スポーツ基本計画を策定し、<u>東京オリ・パラ大会のレガシーの継承・発展</u>やスポーツの価値を高める施策を展開 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>競技力の向上のほか、スポーツを通じた健康増進など、社会活性化に向けた取り組みが今後より重要</u> ✓ 人口減少・高齢化の進行に伴い、今後<u>競技人口が減少</u>する一方、アーバンスポーツなど<u>競技の多様化</u>は進展
観光	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コロナ禍で、国内外の旅行者数は2020年以降大幅に減少 ✓ 団体旅行から個人旅行への旅行形態のシフトが加速し、<u>ワーケーションやサステナブルツーリズム等新しい旅行需要</u>が増大 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 疲弊した観光業界の回復・発展のため、<u>地域固有の観光資源を活かした高付加価値な旅行商品造成</u>の必要性が増大 ✓ <u>多様化した旅行ニーズに対応した新たな需要の取り込み</u>の必要性が増大
地域コミュニティ・ライフスタイル	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 人口減少や少子高齢化の進展、単独世帯の増加に伴い、<u>地域コミュニティが縮小</u>し、医療・介護や子育て、防犯等に対する<u>社会基盤としての機能が縮小</u> ✓ 国は、新たな住生活基本計画を策定し、社会経済の変化に対応した持続可能な住生活の形成を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>人口減少や少子高齢化、地域の格差拡大等</u>により、今後さらなる<u>地域コミュニティの縮小</u>が見込まれる ✓ <u>「Society5.0」の実現</u>により、無人自動運転による移動サービスや、IoT技術による医療や教育サービスの提供等、技術革新による様々な社会課題の解決が期待される

現状・課題と方向性のイメージ – 文化

【現状・課題】

- ・「いしかわ百万石文化祭2023」や「大阪・関西万博」といった好機を逃さず、石川の文化の継承とさらなる磨き上げを図る必要がある
- ・北陸新幹線県内全線開業を見据え、石川の強みである文化資源を観光誘客につなげるために文化観光を推進
- ・県民の自主的・主体的な文化活動の促進が重要
- ・生活様式の変化等により生産額が減少している中、本県を特色づける重要な地場産業である伝統的工芸品産業の発展と継承が必要

- ・日本海側で唯一の国立美術館「国立工芸館」の移転・開館(R2.10)
- ・文化観光推進法の制定（R2.5）、同法による「兼六園周辺文化の森地域計画」の認定（R3.5）
- ・全国最大規模の「いしかわ県民文化振興基金」（120億円）
- ・伝統的工芸品生産額の減少（H2：1,067億円⇒R3：157億円）



国立工芸館（金沢市）

統計からみる石川の文化

1位	日本伝統工芸展入選者数（人口100万人あたり）	53.0人	（公社）日本工芸会(R3)
1位	人間国宝（人口100万人あたり）	7.95人	文化庁(R4.9)
1位	重要伝統的建造物群保存地区数	8地区	文化庁(R4.9)
1位	日展入選者数（人口100万人あたり）	57.4人	（公社）日展(R3)
2位	国指定伝統工芸士数	375名	（一財）伝統的工芸品産業振興協会(R4.3)
6位	国指定伝統的工芸品数	10品目	（一財）伝統的工芸品産業振興協会(R4.2)

<方向性のイメージ>

石川の優れた文化の継承と発展

現状・課題と方向性のイメージ – スポーツ

【現状・課題】

- ・東京オリパラでの本県ゆかりの選手の活躍とその盛り上がりを今後の本県スポーツの振興につなげるため、次世代アスリートの競技力向上のほか、アーバンスポーツなど新たな競技への対応が必要
- ・県民の心身の健康増進のため、若年層から高齢者、女性、障害者を含めて誰もがスポーツに参加できる環境を整備し、スポーツ実施率を高めることが必要
- ・東京オリパラの県内事前合宿国との交流の継続や、県内トップスポーツチームとの連携体制を活かしたスポーツによる地域活性化が重要

・東京オリパラでの本県ゆかりの選手の成績

出場者数：22名

メダル獲得：5名 ※いずれも過去最多

金メダル 金城(旧姓川井)梨紗子選手、川井友香子選手

銀メダル 赤穂ひまわり選手、田中恵子選手・孝子さん、宮島徹也選手

・アーバンスポーツがオリンピックの競技種目に新たに採用

スケートボード、BMX、3×3バスケットボール、ボルダリング、

ブレイクダンスの5種目

→複数種目を一堂に集めたアーバンスポーツイベントを初開催

・国体成績（天皇杯）の推移

年度	H30	R1	R2	R3	R4
順位	23位	35位	中止	中止	28位

・週1回以上のスポーツ実施率

年度	H29	H30	R1	R2
本県	53.1%	47.9%	48.1%	51.8%
全国	51.5%	55.1%	53.6%	59.9%

・東京オリ・パラの県内事前合宿国

区分	競技数	国数
オリンピック	6競技	延べ12カ国
パラリンピック	2競技	延べ7カ国

・県内トップスポーツチームと連携協定締結（H30）

ツエーゲン金沢、石川ミリオンスタース、金沢武士団

北國銀行ハンドボール部Honey Bee、金沢学院クラブ

PFUブルーキャッツ、ヴァンセドール白山の7チーム

→選手と子ども達の交流による「スポーツキッズフェスタ」等を開催

<方向性のイメージ>

ライフステージに応じたスポーツ活動の充実

現状・課題と方向性のイメージ – 交流基盤

【現状・課題】

- ・国内外の人とものとの交流の促進に向け、北陸新幹線を軸とした陸・海・空の交流基盤の整備・充実
- ・北陸新幹線金沢開業に伴い相乗効果を発揮し、想定を上回る効果が発現・継続
- ・北陸新幹線の県内全線開業を契機に、開業効果の最大化と県内全域への波及およびその後の大阪延伸に向けた取組の推進

・北陸新幹線

2015.3 金沢開業

⇒利用者数の増加：開業前の2.6倍(コロナ前)

地価の上昇：開業前の1.5倍（金沢駅前(本町)R4)

金沢港へのクルーズ船寄港数：開業前の約3倍(コロナ前)

2024年春 敦賀開業（県内全線開業） 予定

⇒北陸3県が1時間圏内に

将来 大阪まで延伸

・2空港2重要港湾（小松空港、のと里山空港、金沢港、七尾港）

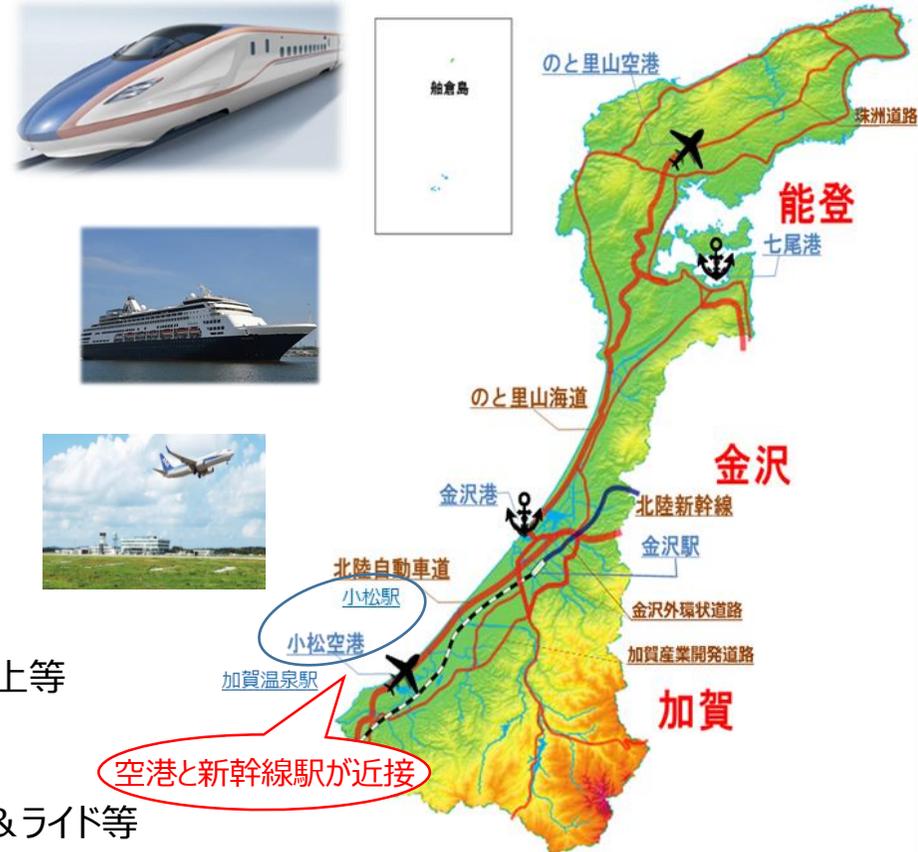
⇒空港を拠点とした地域活性化、
港湾機能の充実強化（レール&クルーズの取組等）

・道路ネットワーク、二次交通

⇒広域交流を推進するための幹線道路網の整備、
鉄道・空港・港湾の拠点との連携強化、公共交通の利便性向上等

・いしかわ里山里海サイクリングルート

⇒走行環境の向上（県内7ルート）、北陸3県連携、サイクル&ライド等



<方向性のイメージ>

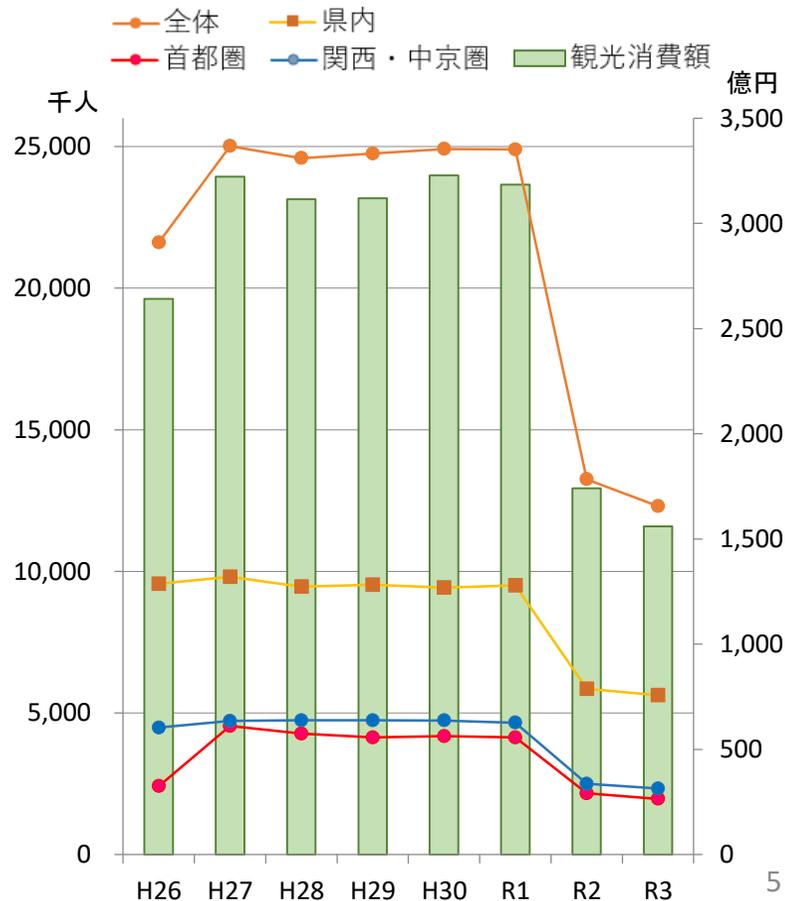
交流人口の拡大に資する陸・海・空の交流基盤の更なる充実

県内観光の現状

- ・北陸新幹線金沢開業により、観光入り込み客数は、平成27年以降に約2,500万人、観光消費額は約3,200億円となり、令和元年まで同水準を維持
- ・令和2年以降はコロナの影響を受け、県民旅行割や全国的な需要喚起策を講じたものの、観光入り込み客数と観光消費額は半減
- ・令和6年春には北陸新幹線県内全線開業が控える

観光入り込み客数、観光消費額の推移

区分	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020	R3 2021
観光入込客数 (対前年比) (千人)	21,611	25,018	24,588	24,753	24,915	24,899	13,252	12,307
3大都市圏(千人)	6,903	9,259	9,011	8,877	8,919	8,793	4,667	4,300
首都圏	2,419	4,542	4,269	4,135	4,182	4,134	2,164	1,967
関西・中京圏	4,484	4,717	4,742	4,742	4,737	4,659	2,503	2,333
観光消費額 (対前年比) (億円)	2,642	3,223	3,115	3,120	3,228	3,184	1,741	1,560



現状・課題と方向性のイメージ – 国内誘客①

【現状・課題】

・「団体旅行」から「個人旅行」へのシフトが進む中、コロナ禍で密集を回避する旅行ニーズや、ワーケーション等といった新たな旅行スタイルへの関心も高まり、旅行ニーズの多様化が加速

- 旅行形態では「個人旅行」の割合が増加



- 少人数旅行や人の密集していない地域への旅行需要の高まり

<今後の国内宿泊旅行で希望すること>

人の多いところは避けたい R2 53.8% ▶ R3 56.4%

大人数の旅行は控えたい " 25.7% ▶ " 30.2%

出典: じゃらんリサーチセンター「新型コロナウイルス感染症の旅行市場への影響」

- 新たな旅行スタイルへの関心の高まり

ワーケーションの認知度 8割

出典: 国土交通省「令和4年度 観光白書」

サステナブルな旅は

自身にとって重要である 7割

出典: Booking.com "Sustainable Travel Report2022"

【現状・課題】

・デジタル技術の進展に伴い、旅行・観光情報の収集方法も多様化

- スマートフォン・タブレット型端末の普及

<主な情報通信機器の保有状況(世帯)>

【スマートフォン】 H23 29.3% ▶ R3 88.6% (3.0倍)

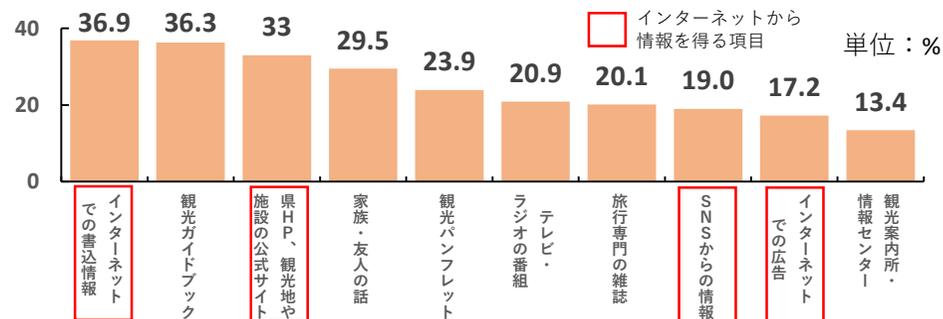
【タブレット型端末】 H23 8.5% ▶ R3 39.4% (4.6倍)

出典: 総務省「通信利用動向調査」

- 旅行・観光情報の収集方法が多様化

<旅行・観光情報で参考にするもの(上位10項目)>

出典: 日本観光振興協会
「令和4年度 観光の実態と志向」
(第41回 国民の観光に関する動向調査)



現状・課題と方向性のイメージ – 国内誘客②

【現状・課題】

- ・疲弊した観光産業の回復・発展のためには、本県が有する豊かで質の高い文化資源を最大限活用し、高付加価値な旅行を推進することが重要
- ・北陸新幹線敦賀延伸により、北陸3県の移動時間が1時間圏内となる強みを活かした取り組みが必要



＜方向性のイメージ＞

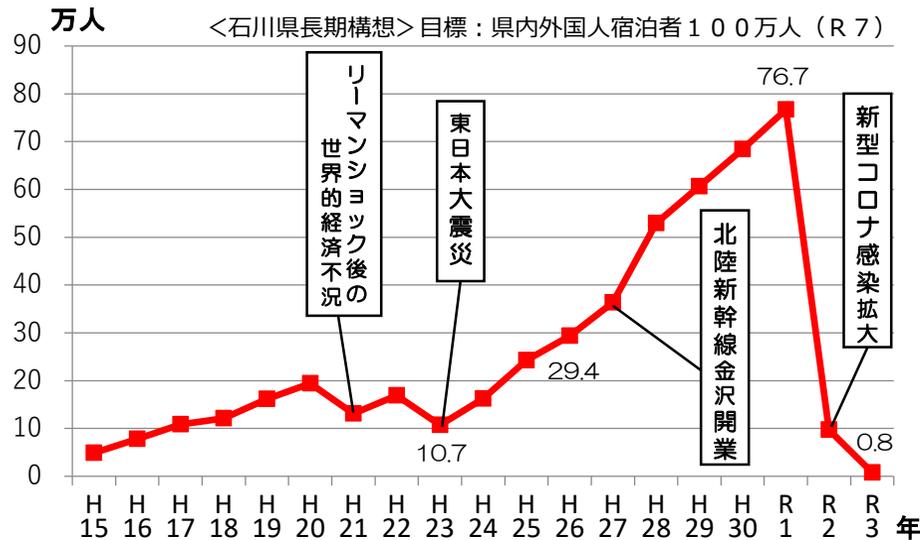
- ・旅行ニーズの多様化に対応した観光魅力の発掘・磨き上げ
- ・情報収集の多様化に対応した効果的な情報発信
- ・優れた石川の文化資源を観光誘客につなげる文化観光の推進
- ・北陸3県で広域連携による誘客体制の強化と周遊観光の促進

現状・課題と方向性のイメージ – 海外誘客

【現状・課題】

- ・コロナ禍における国の水際対策強化により、訪日外国人旅行者が大幅に減少しており、水際対策緩和後のインバウンド再始動に向けた誘客強化が必要
- ・金沢での滞在が中心で、石川県の魅力を十分に活かされておらず、加賀・能登への周遊促進が課題

・石川県外国人宿泊者数の推移



・県内エリア別 外国人宿泊者数

	H26 (構成比)	R1 (構成比)	H26比
金 沢	209,191 (71.2%)	624,205 (81.4%)	298%
加 賀	51,893 (17.7%)	100,083 (13.0%)	193%
能 登	32,872 (11.2%)	42,982 (5.6%)	131%
計	293,956	767,270	261%

<方向性のイメージ>

- ・本県の更なる認知度向上と旅行商品造成の強化
- ・加賀・能登での魅力づくり、交通アクセスの向上

現状・課題と方向性のイメージ – 地域づくり

【現状・課題】

- ・人口減少や少子高齢化が進展する中、将来にわたり地域の活力を確保するための地域づくりの担い手が不足しており、地域づくり活動に参加する多様な人材の育成・確保や外部からの人材の受け入れが必要
- ・持続可能な地域づくりのためには、地域が主体となって、今ある地域資源を磨き上げ、将来に継承していくことが重要

● 地域づくり活動のリーダーとなる人材の育成

⇒地域づくりに取り組む人材の実力を高め、地域づくり活動を活発化

(例)「石川地域づくり塾」：地域づくりにおける課題解決や方向性を構築する能力を身につける連続講座の開催

年度	H16	(略)	H29	H30	R1	R2	R3
受講者累計	43		925	934	940	952	957

→「石川地域づくり塾」の受講者の累計

● 外部人材の受け入れ促進と地域住民との協働した地域づくり

⇒地域外の学生・社会人等が参加できる地域活動や地域住民との交流機会を提供

(例)「いしかわステイサポート事業」：県外の方を対象とした地域住民との交流と地域活動体験を提供

「能登・祭りの環」：学生による能登の祭礼への参加等の推進

● オンラインを通じ、地域外の人材が参画する地域づくり

⇒地域の課題解決や地域のファンづくりに取り組む

(例)「いしかわステイサポート事業（オンラインプログラム）」：オンラインにより、地域課題をテーマに県外の方に地域住民と交流する機会を提供し、将来の現地訪問に繋げる

● 地域の個性を活かした地域活性化と魅力の創出

⇒地域の特産品や自然など、その地域特有の資源を活用し地域の魅力を高める

(例) 能登の里山里海、のとキリシマツツジ、能登弁、小松の石文化

<「石川地域づくり塾」>



<「いしかわステイサポート事業」>



<「能登・祭りの環」>



<方向性のイメージ>

- ・多様な人々が交流し、役割を持ち活躍できる地域づくり
- ・地域課題の解決に向け、オンラインも活用した地域外人材の受け入れ促進
- ・地域が有する多彩な地域資源の活用による魅力の創出

現状・課題と方向性のイメージ – 移住・定住

【現状・課題】

- ・本県での暮らしの魅力を実感いただく移住体験などの取り組みを進め、移住者数は順調に増加
- ・コロナ禍を契機に、東京一極集中のリスクが改めて認識され、地方移住への関心が高まっている
- ・場所にとらわれない働き方・暮らし方の実現等、新たなニーズに即した取組が求められている
- ・移住希望者をつなぎとめ、実際の移住につなげるためのきめ細かな取組が必要

・本県への移住者数

県・市町の施策を活用した移住者数の推移 (単位：人)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
移住者数計	510	889	1,020	1,182	1,390	1,430	1,478 (過去最高)
ILAC	30※	243	359	425	452	433	497

※H27(ILAC開設前)は、アンテナショップに相談窓口を設けて対応

(参考) 移住体験参加者数

(単位：人)

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
参加者計	24	61	118	106	150	180
現地移住体験	24	61	118	106	126	113
ワライ移住体験	-	-	-	-	24	67

現地移住体験：ニーズに応じて、オーダーメイドで仕事と暮らしの体験をコーディネートし、現地を案内

ワライ移住体験：ウェブ会議システムを活用し、現地からのライブ中継により、ニーズに応じて現地を案内

・コロナ禍を契機とした地方移住への関心の変化

(内閣府調査)

R1.12調査 R4.6調査

東京圏在住者	25.1%	→	34.2%
東京23区在住の20歳代	38.9%	→	50.9%

- ・お試しテレワーク移住支援事業の実施状況 (R4.6月補正)
テレワークにより本県での遠隔地勤務を試行する場合に経費の一部を助成

【条件】期間：6泊7日以上

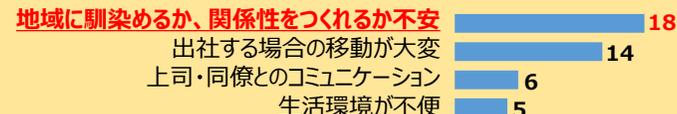
補助額：上限100千円/人 (補助率1/2)

対象経費：滞在施設費、移動交通費等

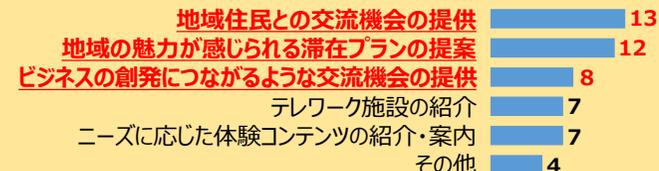
【実績】申請数：63件 (予算額に達したことから受付終了)

<お試しテレワーク移住参加者の課題・ニーズ>

○テレワーク移住を実施する上での不安・課題



○お試しテレワーク移住体験中に望む支援



お試しテレワーク移住体験実施者に対するアンケート (n = 30)

滞在期間中における地域との関係性構築がその後の移住・定住に重要

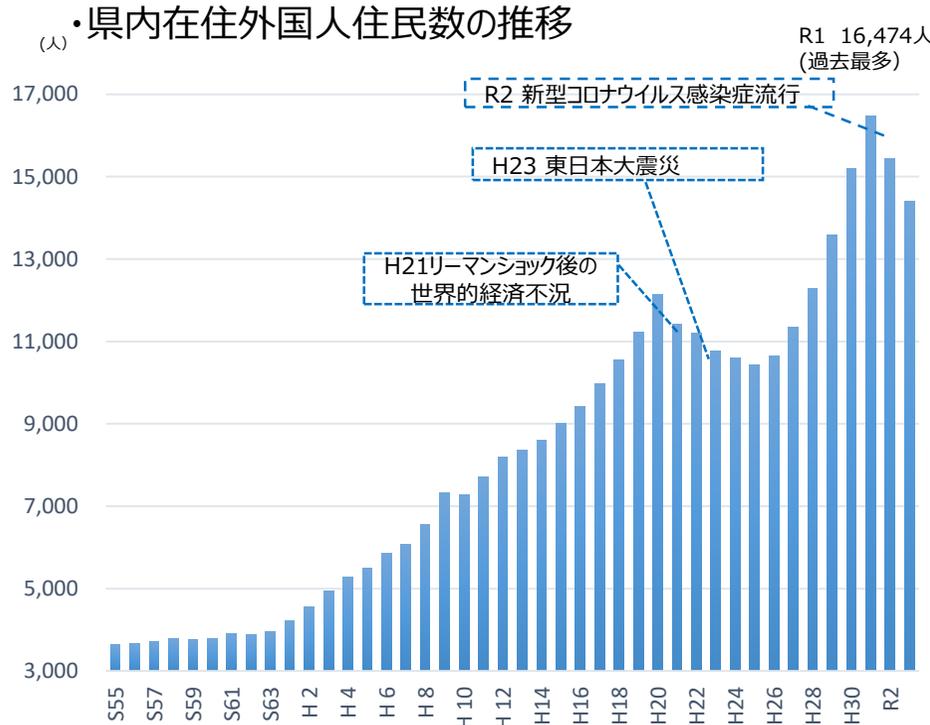
<方向性のイメージ>

- ・時流を捉え、移住希望者の多様なニーズにきめ細かく対応
- ・移住希望者と地域とのつながりの創出・深化による移住・定住の更なる促進

現状・課題と方向性のイメージ – 国際交流

【現状・課題】

- ・外国人住民の増加に伴い、多文化共生の必要性が増大
- ・グローバル化の進展により、国際社会に通用する人材育成が重要



・石川県の状況（直近5年）

(単位：人)

区分	H29	H30	R1	R2	R3
外国人住民数 ※	13,596	15,206	16,474	15,447	14,412
技能実習	4,141	5,247	6,286	5,272	3,775
留学	2,135	2,133	2,212	1,716	1,305
その他	7,320	7,826	7,976	8,459	9,302
国際交流ボランティア登録者数	701	729	727	676	561
石川ジャパニーズ・スタディーズ・プログラム研修生数	366	350	385	0	158

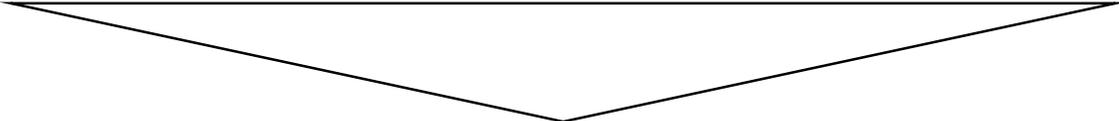
※ R3 国籍別 ①ベトナム (29%) ②中国 (24%) ③ブラジル (9%)

<方向性のイメージ>

- ・外国人住民と日本人住民が、ともに生き生きと安心して暮らせる社会づくり
- ・世界の各地域との多様な国際交流・国際協力の推進

個性豊かな地域づくりの方向性のイメージ

分野	方向性のイメージ
文化	石川の優れた文化の継承と発展
スポーツ	ライフステージに応じたスポーツ活動の充実
交流基盤	交流人口の拡大に資する陸・海・空の交流基盤の更なる充実
国内誘客	旅行ニーズの多様化に対応した観光魅力の発掘・磨き上げ
	情報収集の多様化に対応した効果的な情報発信
	優れた石川の文化資源を観光誘客につなげる文化観光の推進
	北陸3県で広域連携による誘客体制の強化と周遊観光の促進
海外誘客	本県の更なる認知度向上と旅行商品造成の強化
	加賀・能登での魅力づくり、交通アクセスの向上
地域づくり	多様な人々が交流し、役割を持ち活躍できる地域づくり
	地域課題の解決に向け、オンラインも活用した地域外人材の受け入れ促進
	地域が有する多彩な地域資源の活用による魅力の創出
移住定住	時流を捉え、移住希望者の多様なニーズにきめ細かく対応
	移住希望者と地域とのつながりの創出・深化による移住・定住の更なる促進
国際交流	外国人住民と日本人住民が、ともに生き生きと安心して暮らせる社会づくり
	世界の各地域との多様な国際交流・国際協力の推進

- 
- あらゆる分野におけるデジタル技術の活用
 - 持続可能な社会(カーボンニュートラル等)の実現に向けた取り組み
 - ウイズコロナ、アフターコロナにおける新しい生活様式への対応 など

**新たな時代の潮流を踏まえ、今後（10年程度先）
石川県はどのような方向性を目指していくべきか**